

1 派遣期日 平成 22 年 10 月 19 日（火）

2 研修先 学校名 埼玉大学教育学部附属小学校

所在地 埼玉県さいたま市浦和区常盤 6－9－44

<http://www.fusho.saitama-u.ac.jp>

3 研修内容

第 78 回小学校教育研究協議会 自己を磨く児童を育てる授業の創造（3 年次）
～新教育課程の全面実施に向けて～

（1）第 6 学年外国語活動授業参観および研究協議

① 授業の概略

○単元名 「オリジナルの劇をつくろう」 指導者 HRT 須藤 康親 先生
ALT David Plitnik

○授業の強調点

- 1）オリジナルの劇「大きなかぶ」の劇を楽しんで表現するとともに、他のグループの発表を見て、英語のセリフやジェスチャーなどから話の内容を理解できるようにする。
- 2）グループごとに決めたテーマに合わせて、オリジナルの劇「大きなかぶ」を発表したり、他のグループの発表を聞いたりして、言語や文化に対する理解を深める。

② 研究協議

- 英語に慣れる、親しむ児童が増えた。
- 国語の音読の仕方が外国語活動でも生きている。
- 言語・文化への理解が十分でなく、尊重するところまで達していない。
- 生活に生きる場面にどうつなげていくかが課題である。

（2）第 5 学年外国語活動授業参観および研究協議

① 授業の概略

○単元名 「外来語を知ろう」 指導者 HRT 岡田 大助 先生
ALT David Plitnik

○授業の強調点

- 1）ペアの友達にオリジナルのフルーツパフェを作るため。フルーツを買うという場面を設定する。また、300 円以内で買い物をするという条件を付け、それぞれ値段の違うフルーツを買うために値段を聞いたり答えたりするという活動を通し、コミュニケーションの必要が出るようにする。
- 2）自分の考えを確実に相手に伝えること、客と店員との関係を円滑にすることを念頭において活動するよう伝え、意識化できるようにする。

② 研究協議

- アイコンタクトが男女間でできていなかった。
- 複数形の s がつくことを気づかせる程度の手立てが必要である。
- 英語での言い方がわからないときは、直接 ALT に質問に行くといよい。

4 感想

- 学習指導要領を踏まえ、外国語活動を行うにあたっての基本的な考え方やカリキュラム作成、評価が確立されており、共通理解のもとに指導されていて、大変参考になった。
- 埼玉県での外国語活動の取り組みを参考にし、本校の実態に応じた外国語活動の指導にあたりたい。